

若き日の貝類採集

斎藤岩雄

同好会々報に「若き日の貝類採集」という題で投稿するようにと依頼され、心よく引き受けたものの、何を書いてよいのか迷ったが、ともかく思いつくままに記すことにした。

本県の貝類については、昭和8年に県下小・中学生を総動員して採集したのが最初である。それまでは全く未開拓の県であった。昭和8年に初めて「福井県生物目録」ができ、貝についても434種が記載された。私はこの年の4月初めて西ヶ浦小学校に赴任した年で、子どもとともに貝を集めた。

この時採集した標本は天覧の栄を賜わり、かつ祇上されるという光栄に浴し、当時採集に努力した者ひとしお感激したものである。そのため、再び貝の標本を補充することになり、こんどは、今までの経験を生かし、より完全な標本と目録を作ることになり、昭和9年から5ヶ年計画で、また貝を集めることになった。

私は海岸の学校にいた関係と新卒の若さで、この仕事の一端を引き受けたのである。したがって、私の本格的な貝類採集は昭和9年から始められたといってよい。

今から思えば、この昭和9・10年の頃が、本県貝類採集の全盛で、県下各地で同好の貝友諸氏が活躍していた。それこそ炎熱焼くが如き酷暑に、山に川に海にと、貝を求めさがした時である。しかし、これら同好の諸氏の情熱も、いつの間にか消えて行った。

私はその頃、貝の気違い先生とまでいわれていた。それこそ、毎日寸暇をさいて貝を集めた。寒い冬の荒れ狂う海岸で貝をさがし求ることは大変な苦労であったが、荒れた日には何か珍らしい貝が打ちあげられるような気がしたからである。深海の貝に目をつけ、これにいどんだのもこの頃からである。幸い漁師の協力を得、次々と深海の珍らしい貝を採集し、本県貝類の真価を発揮し、全国的に本県の貝が大きくクローズ・アップされていった。

昭和10年、県会議事堂で行なわれた県生物学会総会で、「西ヶ浦沖における貝類採集」と題し研究発表をした。22才の時である。

いま、この時の記録を見ると、カクレニナ、トウダカバイ、チシマガイ、スミスハネガイ、ヒラネリガイ、リクセンボラ、イトマキカミオボラ、ケショウツノオリイレ、コチョウシャクシガイ、ヒダリマキイグチ、ヤゲンイグチ、フジタキリガイダマシ等々、珍らしい貝を中心に、その採集の苦心談を発表したように記憶している。

こうした珍希あるいは新貝を続々と採集したため、日本貝類学会でも、すばらしい採集家として目をつけたらしい。

昭和14年、私が初めて日本貝類学会の会議に参加した。集まった先生方は御年輩の方が多く、20代では波部氏（現理学博士波部忠重先生）、大山氏（現理学博士大山桂先生）と私の3人であった。将来の日本貝類を背負って立つ若き青年研究家としてもてはやされ、食事の時はこの3人が正面に座らせられた感激は今も忘れられない。波部先生、大山先生は期待通り、現在の日本の貝類研究の総元締として御活躍されていることは喜びにたえない。

昭和15年10月、福井中学校において「福井県の深海貝類の分布」と題して再び研究発表を行なった。私は福井県の海を5つに区分して深海の貝の分布状況や海底の土質の状況などを明らかにした。いうまでもなく、昭和9年以来採集した深海貝類の総まとめである。私が説明している間、貝類顧問の黒田徳米先生が、たえずメモを取っていたのが特に印象深く、今も脳裏に焼きついている。

この時、開口一番「本県の貝は現在600種余りに過ぎないが、他県の様子から推して考える時、少くとも本県で1,200種以上採集できねばならない。現在まだその半ばに過ぎない……。」と主張した。後日黒田先生から「1,200種とは驚いた。」といって笑われた。

しかし、昭和22年待望の第2回貝類目録が、古川田溝先生の御努力でできた時、840種を数えることができ、今まで博物館目録で調べると、約900種の貝が本県産の貝としてあげができる。1,200種は決して夢でないと、私は今も信じている。

その後戦争となり私も出征した。戦後再び集めましたが、思うように採集もできず、いつの間にか年も50才を半ば過ぎてしまい、髪はぬけ、目はうとくなり、歯もガタガタになり、気ばかりあせっている昨今である。

当時の採集品の一部は、福井市に博物館ができたのを機会に、基礎標本として400種余り寄贈し、かつ陳列にならべる貝も提供したが、もう最近これらの貝は集められそうにもない。

過日、越前町で集めたなつかしい海岸を見たが、すっかり変り、もう貝の破片すら見ることができない。このことは海岸だけではない。土地改良、道路工事、観光開発、建築ブーム、そして農薬散布等々で、陸貝も淡水貝も磯貝もまさに全滅寸前である。今こそ全力をあげて採集し、保存せねば永久に姿を消す貝もあろうと思われる所以、多くの同好者諸君の奮起を心から望むものである。

南越中学校 校長